

## 第 11 講 ミケーネ文明勃興論

### (1) 竪穴墓をもたらした民族（アカイア人）侵入説に対して

中期ヘラディック後期と後期ヘラディック期との間には断絶はない

(Hooker 37)

墓標の使用：Γ（中期ヘラディック後期末）とV（後期ヘラディック I 期）

土器：前 15 世紀に至るまで中期ヘラディック様式の土器（ミニュアス式の台付き盃）が副葬される。

円形墓Bよりも古い円形墓の存在：円形墓は本土における中期ヘラディック期の文化的発展の結果。

ソロス墓：メッセニアでは中期ヘラディック期に既に作られていた。

### (2) クレタ人の本土占領説（エヴァンズ）に対して

根拠：クレタ製の剣A（刀身が長く狭い）・B（刀身は短く幅広）

卵型のリュトン・銀製の牡牛の頭をしたリュトン・その他クレタのリュトン

反論：黄金のマスク：純粋にギリシア本土のもの

黄金の盃：ミニュアス式土器の器形

黄金の獅子の頭をしたリュトン：技術的にクレタのものと異なる

ギリシア本土のミニュアス式土器、艶消し鈍彩土器：IとVI

円形墓Aにはクレタのものは少なく、本土のものが多い。

### (3) クレタ人捕虜説（カロ）

ギリシア本土からクレタ島を襲った略奪者の略奪品を埋納

ミケーネの題材でクレタの様式で作られた竪穴墓の副葬品：

捕虜となって本土に連れて来られた職人の作品

反論：竪穴墓よりずっと以前から本土とクレタは交流していた

(Hooker 46)

円形墓Aの副葬品はむしろ交易の増大を示す (47)

竪穴墓の副葬品のコスモポリタンな性格

琥珀：バルト海との交易

黄金製の冠：アッシリアや 16 世紀のカッシート

銀と鉛の合金製の小さな牡鹿の鋳型：アナトリア

銀製のピン：ヒッタイト

渦流紋状の黄金製の装飾品：メソポタミア

## 金属象嵌の技術：シリア

### (4) 富裕なクレタ人避難説（ロリマー）

余震に警告された数多くのクレタ人が手にたずさえるものを携帯して、ギリシアに逃げた。芸術家や職人も彼等のお供をし、道具を携帯して同行した。

反論：(1) ー (3) 説と同じくミケーネ文明のクレタの文化的影響の過大評価による。中期青銅器の文化との文化的連続とクレタに限定できない文化的繋がり広さ。

### (5) エジプトへの傭兵説（パターソン／マリナトス）

本土の諸侯が 16 世紀初めのヒクソス追放の際に傭兵軍を率いてエジプト人を支援した。ヒクソス追放後、エジプト王はギリシア人に貴金属で謝礼した。これらはミケーネに持ち帰られ、職人の手で黄金製品や銀製品に加工され、堅穴墓に副葬品として埋納された。

⇕

根拠：エジプトで初めて見た馬と戦車を、帰国後円形墓Aの第V墓の墓標にした。

#### 1) hau-nebwet : エジプトの文献に登場して来る

「ギリシア本土の住民」を意味する。

#### 2) ダナオス神話：後期青銅器時代初めの本土とエジプトとの関係を示す。

アポッロドーロス、2. 1. 4-5.

アゲノールとベーロスにポセイドンがリビュエとの間に設けた双子であった。

アゲノールはフェニキアに行き、その子供達がテーベ、フェニキアそれにギリシアの王朝を樹立した。

⇕

その後アイギュプトスとダナオスは領土を分かち合うと誓う。

⇕

争いに敗れたダナオスはアルゴスに逃れる。

アゲノールからアルゴスを奪い、自分の名に因んで住民を「ダナオイ」と名付けた。

#### 3) 堅穴墓出土の数々の出土品：

エジプトからの招来品

V墓出土の象牙製の犬を伴う模様：川岸に沿ってパピルスが生い茂り、山猫がアヒルに忍び寄る＝エジプト

からの借用。

駝鳥の卵型のファイアンス製の海豚の付けられたリュ  
トン

- 4) ミケーネ人傭兵がエジプトで馬と戦車を学び、かつエジプト  
で初めて墓碑なるものを見た (パーソン)

⇕

反論：略奪説に対するものと同じ論拠

クレタの文化的影響が増えて来る

- 1) について：エジプト人が **hau-nebwet** を地中海の島嶼部以  
外の地を示していて、しかも自分達の中に住むも  
のと考えていた、という論拠はない。
- 2) について：①ホメロスはアルゴス人やアカイア人を「ダナオ  
イ」としばしば呼ぶ。けれどもダナオスの名前は  
知らない。  
②ホメロスにおいてはダナオスとアルゴスとは結  
びついておらず、北部ギリシアにダナオイを置い  
ている。  
③ダナオスとダナオイはいかなる史料によっても  
明確には結びつかない。  
④元々ダナオス神話はお伽話し

⇕

- 3) について：エジプトの痕跡はミノスの特徴を伴っている

⇕

ミケーネの職人がクレタ島のやり方で表現している  
クレタ島では既に知られていた技術である

V墓出土の象牙製の犬を伴う模様に対しては山猫の  
モチーフはクレタの職人によって借用されたもの。  
駝鳥の卵型のファイアンス製の海豚の付けられたリ  
ュトンに対しては：駝鳥はエジプトからエーゲ海に  
伝えられたもの。しかし第1宮殿時代から既にクレ  
タで土器によって生産されていた。

- 4) について：円形墓Bの墓碑板の存在。本土人はエジプトに行  
く前に既に知っていた。

エジプトから出土する **LH-III** の土器は非常に少ない。